



©Masashige Ogata

大谷康子（おおたに・やすこ）◆ヴァイオリン

2020年にデビュー45周年を迎える、人気・実力ともに日本を代表するヴァイオリニスト。華のあるステージ、深く温かい演奏で聴衆に感動と喜びを届けており「歌うヴァイオリン」と評される。東京藝術大学、同大学院博士課程修了。在学中よりソロ活動を始め、ウィーン、ローマ、ケルン、ベルリンなどでのリサイタル、トロント音楽祭、ザルツブルク市などに招待され好評を得る。スロヴァキアフィル、シュトゥットガルト室内楽団など国内外の著名なオーケストラとも多数共演。

また、1公演で4曲のヴァイオリン協奏曲を1日2公演行うという前代未聞の快挙を達成し話題となった。2017年はウィーンのムジークフェラインでリサイタルを開催。夏にはロシアの名門モスクワ・フィルの日本ツアーにソリストとして出演し絶賛を博した。キエフ国立フィルとは2017年以降毎年招聘され、2019年11月ウクライナで3年連続で共演した。また、5月に実力派ピアニストのイタマール・ゴランと全国ツアー（12都市）を開催し、8月21日にCDを発売。CDは、ベストセラー「椿姫ファンタジー」（SONY）や、ベルリンでの録音による「R. シュトラウス/ベートーヴェン・ソナタNo.5（ピアノ：イタマール・ゴラン）」（SONY）も評価が高い。その他多数リリース。著書に「ヴァイオリニスト 今日走る！」（KADOKAWA）がある。BSテレビ東京（毎週土曜朝8時より放送）「おんがく交差点」では春風亭小朝と司会・演奏を務め、八面六臂の活躍をしている。文化庁「芸術祭大賞」受賞。東京音楽大学教授。東京藝術大学講師。（公財）練馬区文化振興協会理事長。川崎市市民文化大使。高知県観光特使。（公財）日本交響楽振興財団理事。使用楽器は日本音楽財団所有のストラディヴァリウス「ウィルヘルミ」（1725年製）。公式ウェブサイト<https://yasukoohtani.com/>

ストラディヴァリウス1725年製ヴァイオリン「ウィルヘルミ」

Stradivarius 1725 Violin "Wilhelmj"

この楽器は、著名なドイツのヴァイオリン奏者アウグスト・ウィルヘルミ（1845～1908）によって所有・演奏されていたためこの名前が付けられた。法学博士でありアマチュア・ヴァイオリン奏者であったウィルヘルミの父親が彼のために1866年にこの楽器を購入した。ウィルヘルミの所有していた数多くのヴァイオリンのうち最も愛用されていた楽器だったが、公での演奏活動を休止して暫くたった1896年「演奏者として華のあるうちに引退したい」との理由で、50代の若さで楽器を手放した。

日本音楽財団はアントニオ・ストラディヴァリ（1644～1737）の他、バルトロメオ・ジュゼッペ・グアルネリ（1698～1744）によって製作された弦楽器の名器を保有している。それらは国籍を問わず無償で演奏家に貸し出され、演奏活動に役立てられている。



©Takaaki Hirata

佐藤卓史（さとう・たかし）◆ピアノ

1983年秋田市生まれ。高校在学中の2001年、日本音楽コンクールで第1位。東京藝術大学を首席で卒業後渡欧、ハノーファー音楽演劇大学ならびにウィーン国立音楽大学で研鑽を積む。2007年シュューベルト国際コンクール第1位、2010年エリザベート王妃国際コンクール入賞、2011年カントゥ国際コンクール第1位など受賞多数。

N響、東京響、日本フィル、神奈川フィル、大阪響、広島響、ベルギー国立管など内外のオーケストラと多数共演。2012年からエリザベート王妃国際コンクール公式ピアニストを務める。2014年から「佐藤卓史シュューベルトツィクルス」を展開、ライフワークとしてシュューベルトのピアノ曲全曲演奏に取り組んでいる。

BSテレビ東京「おんがく交差点」（土曜朝8時）レギュラー出演中。作編曲・室内楽など幅広い分野で活躍している。

公式ウェブサイト[www.takashi-sato.jp](http://www.takashi-sato.jp)

青少年のための  
ヴァイオリン  
コンサート

大谷康子（ヴァイオリン）  
佐藤卓史（ピアノ）

2020.1/25（土）14:00開演  
浦安市文化会館 小ホール

- 主催：浦安市、浦安市教育委員会、日本音楽財団
- 共催：J：COM浦安音楽ホール
- 助成：日本財団



日本音楽財団  
NIPPON MUSIC FOUNDATION



# Program プログラム

構成：大谷康子

フリッツ・クライスラー：「愛の??」「愛の??？」

アントニオ・ヴィヴァルディ：ヴァイオリン協奏曲集 作品8 「四季」から「？」  
第1楽章

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第5番 作品24  
「春」から第1楽章

ヨハン・セバスティアン・バッハ（ウィルヘルミ編曲）：G線上のアリア

ヨハネス・ブラームス：ハンガリー舞曲 第5番

葉加瀬太郎：「情熱大陸」のテーマ

ジャン・アラール：「椿姫ファンタジー」作品38から「乾杯の歌」

パブロ・デ・サラサーテ：ツィゴイネルワイゼン

ストラディヴァリウス  
1725年製ヴァイオリン  
「ウィルヘルミ」  
(日本音楽財団所有)



## Program notes 曲目解説

曲目解説：伊藤裕太

ヴァイオリンが現在の形となって音楽に登場するのは16世紀以降です。日本の戦国時代です。ヴァイオリン属には4種類の楽器があって、音の高いほうから「ヴァイオリン」、「ヴィオラ」、「チェロ」、「コントラバス」の4種類があります。楽器に張ってある「弦」を「弓」で弾きます。

- \*楽器は何から作られているでしょう？
- \*弦は何でできているでしょう？
- \*弓は何でできているでしょう？

現存している一番古いヴァイオリンは1564年に作られたものとされています。日本では「永禄の変」という事件が起きた室町時代です。今日、大谷康子さんが演奏する日本音楽財団所有のヴァイオリンは、1725年にイタリアのアントニオ・ストラディヴァリが作ったもので、以前の持ち主にちなんで「ウィルヘルミ」と呼ばれています。日本の江戸時代中期で第八代将軍吉宗が享保の改革を行った頃です。

フリッツ・クライスラー（1875～1962）：「愛の??」「愛の??？」

作曲家は自分が抱く様々な感情を音楽に込めて作曲します。クライスラーは1875年にウィーンに生まれたヴァイオリンの名手でもある作曲家です。彼が作曲した「愛の悲しみ」と「愛の喜び」はしばしば演奏される名曲中の名曲です。大谷康子さんは2曲とも演奏しますが、ふたつの演奏のどちらが喜びで悲しみなのか、感じてみてください。

アントニオ・ヴィヴァルディ（1678～1741）：ヴァイオリン協奏曲集「四季」から「？」第1楽章

作曲家は自分の見聞したり体験した世界を、音楽の中で表現しようとします。ヴィヴァルディはイタリア生まれの作曲家で生涯に700曲以上も作曲しました。彼の多くの協奏曲は急・緩・急という3つの楽章からなる形式で書かれています。「四季」は春・夏・秋・冬の4曲からできています。それぞれの曲にソネットという詩が付いていて、四季の情景が音楽で描かれています。この頃の音楽は王侯のために作曲されました。皆さんも昔のヨーロッパの貴族になったような気分でお聴きください。

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）：ヴァイオリン・ソナタ 第5番「春」から第1楽章

ベートーヴェンは今年生誕250年を迎える作曲家でバッハ、ブラームスとともに3大Bとも呼ばれています。「春」はベートーヴェンが作曲した10曲のヴァイオリン・ソナタの中で5番目の曲で1800年～01年にかけて作られました。「春」という副題はベートーヴェンが名付けたわけではありません。曲を聴いた人が「春」のようだと思いを述べているうちに「春」という名前が定着しました。「春」を感じさせる曲、「春」を描く演奏とはどういうもののでしょうか？

ヨハン・セバスティアン・バッハ（1685～1750）（ウィルヘルミ編曲）：G線上のアリア

ヨハン・セバスティアン・バッハはヴィヴァルディとほぼ同じ時代に活躍した作曲家です。この曲の元の曲はバッハの管弦楽組曲第3番の第2曲「アリア」です。ヴァイオリニストのウィルヘルミが後年、ヴァイオリンとピアノで演奏できるように編曲しましたが、彼がヴァイオリンのG線だけで演奏することができたので、「G線上のアリア」と呼ばれるようになりました。本日、大谷康子さんが演奏するストラディヴァリウスをこのウィルヘルミが所有していました。彼はどんな演奏をしていたのでしょうか。

ヨハネス・ブラームス（1833～1897）：ハンガリー舞曲 第5番

北ドイツのハンブルクに生まれたブラームスは、日本の江戸時代末期から明治時代にかけて作曲活動をしました。1853年から伴奏者としてハンガリーを演奏旅行したブラームスはロマの人たちの音楽の採譜を続け、それを21曲の舞曲集として出版しました。それが親友でヴァイオリニストのヨアヒムの手によりヴァイオリンとピアノに編曲されました。ブラームスがエジソンの頼みにより1889年にこの舞曲集の第1番を録音したものが、史上初のレコーディングとされています。

葉加瀬太郎（1968～）：「情熱大陸」のテーマ

ヴァイオリンが演奏されるシーンは、最近ではクラシック音楽のみならず、ポピュラー・ジャズ・映画・ゲーム・アニメなど様々なジャンルに拡大しています。それらも音楽です。葉加瀬太郎さんは東京藝術大学にヴァイオリンで入学した後、「クライズラー&カンパニー」のメンバーとして音楽界に登場。ジャンルを越えて人気を博しています。テレビ番組「情熱大陸」に出演した際に「Etupirika」を演奏したところ、番組のエンディングに使いたいとの申し出があり、合わせてオープニングテーマも作曲したという経緯があります。葉加瀬太郎さんは大谷康子さんの後輩で、大谷さんが司会・演奏を務めるテレビ番組にも出演しました。

ジャン・アラール（1815～1888）：「椿姫ファンタジー」から「乾杯の歌」

アラールはフランスの優れたヴァイオリニストであり作曲家でした。そして、次に演奏する曲を作曲したサラサーテはこのアラールの高弟の一人でした。この曲はイタリアの作曲家ヴェルディの代表作とも言える「椿姫」というオペラの有名な旋律に基づいて作曲された、とても技巧的な曲です。聴き手には楽しく、弾き手には難しい曲を難なく弾きこなす大谷康子さんの演奏をお楽しみください。今は楽譜が出版されていないので、日本では大谷康子さんしか演奏していないようです。

パブロ・デ・サラサーテ（1844～1908）：ツィゴイネルワイゼン

この曲はヴァイオリン曲としては最も多く演奏される曲のひとつです。1844年スペイン生まれのサラサーテはパリ音楽院で前述のアラールに学びました。多くの名ヴァイオリニストが活躍した19世紀にあってもサラサーテの存在は特別で、多くのヴァイオリンの名曲がサラサーテに捧げられています。ツィゴイネルワイゼンとは「ロマの歌」のことで、全体が哀愁、甘美、熱情、独特のリズム、多様な超絶技巧で彩られ、「歌うヴァイオリン」大谷康子さんは3800回以上もこの曲を演奏しています。